

# 2020年度(第31回) 一般社団法人 日本鉄道車両工業会表彰

2020年度(第31回)一般社団法人 日本鉄道車両工業会表彰を次の16名の方々が受賞されました。受賞された皆様の”受賞の喜びと今後の抱負”についてご寄稿いただきましたので御紹介致します。

\*\*\*\*\*

## 鉄道車両工業功労者関係

\*\*\*\*\*

**大野 譲 氏 (株式会社 総合車両製作所)**



この度は「鉄道車両工業功労者表彰」の栄誉に浴しましたことは、身に余る光栄であり、これまでご指導、ご支援を頂きました皆様とご推薦、ご承認いただきました関係各位様に心より厚くお礼申し上げます。

振り返りますと、鉄道車両のメンテナンスや改造工事に始まり現在の車両・コンテナ製造まで40年余りをこの業界に関わらせていただきました。

振り出しの新潟では、新幹線の開業と「特急とき」の廃止、千葉・長野へ183系電車の転配属と越後線の電化開業にも参加しシンプルカテナリーでの集電の難しさ（パンタが離線しMGが停止してしまう）も体験しました。

JR東日本本社では、車両の取替計画を主に担当し、209系以降の10年間の新形式の誕生に車両製造メーカーのご協力のもと関わってきました。

現在は、車両メーカーの一員として、国内外の鉄道事業者さまやご利用のお客さまに喜んでいただけるコストパフォーマンスの高い鉄道車両の提供に取り組んでいます。

少子高齢化、そして新型コロナの影響でテレワーク等の推進や景気後退で鉄道の需要への影響が強く懸念されている中、鉄道の発展と日本鉄道車両工業会の発展に微力ながらこれからも努力をさせていただきます。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

## 兼 次 豊 明 氏 (株式会社 京三製作所)



この度、日本鉄道車輛工業会の「鉄道車両工業振興功労者表彰」の栄誉に浴しましたことは、身に余る光栄であり、これまで多大なるご指導、ご鞭撻をいただきました皆様、並びに今回ご推薦をいただきました関係各位に心より御礼を申し上げます。

私は京三製作所に入社以来、鉄道信号機器の設計に永年従事しておりましたが、鉄道車両との関係はあまり深いものではありませんでした。そのような折、「監事を」とのお話をいただき戸惑いもありました。

しかし、理事会やその他の活動内容で本工業会が鉄道車両産業に果たす重要な役割を認識するにつれ、よりいっそう頑張らなければという思いを強くしました。

理事会や懇親会での人的な交わりも私にとっては貴重な財産になりましたが、一番の思い出は、私の亡くなった父親が勤めていた中村自工の会長様、社長様より「兼次くんじゃないか！」と声を掛けて頂いた時、驚きと共になつかしさが湧き出てきて不思議な縁を感じました。

最後に日本鉄道車輛工業会の益々のご発展を祈念し、御礼の言葉といたします。どうもありがとうございました。

\*\*\*\*\*

## 小 林 佐 栄 喜 氏 (株式会社 日立コトランスミッション)



この度は、栄えある鉄道車両工業功労者表彰を頂きましたこと誠に光栄であり厚く御礼申し上げます。

振り返れば1992年から今日に至るまでの28年間、弊社の加茂事業所において多くの鉄道事業に関わってまいりました。最初は設計部で、車両メーカー様やJRおよび第3セクター鉄道の各社様と仕様を詰め、新車両または換装車両に搭載されるトランスミッションやその制御の開発に携わりました。次いで生産管理部では、ご要求の仕様の製品を所定の期日に納品出来るように事業所の生産計画を練り、設計・製造部門と一丸になって生産に取り組みました。

そして現在は事業所全体を動かし、設計・製造の品質改善や製品の品質保証とサービス体制の改善に励み、鉄道用製品の安定供給に努めている次第です。

この間、鉄道事業関係者の皆様からのモノづくりに対する厳しいご指摘や忌憚のないご要望とともに暖かいご支援を賜りましたこと深く感謝申し上げます。微力ではありますが今後も鉄道業界に関わりその発展に努めてまいりたいと思います。

結びに、日本鉄道車輛工業会においては今後も益々のご発展を遂げられることを祈念し、この度の表彰の感謝の言葉とさせていただきます。

\*\*\*\*\*

## 鉄道車両工業精励者関係

### 伊藤和紀氏（株式会社総合車両製作所）



この度は、栄誉ある日本鉄道車輛工業会の鉄道車両工業精励者表彰をいただき、誠にありがとうございました。また受賞にあたりご推薦頂きました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

入社以来、製造、営業、安全衛生部門に従事し、製造部在籍時では構体部署に配属され自動機もなく手作業で溶接を行っていた時代からプラットフォーム共通化を採用している次世代ステンレス車両のsustina構体まで、さまざまな車両制作に携わることができましたことは、私自身の貴重な経験になれたと思っています。

また、鉄車工では、車両生産小委員会のメンバーに参画し、会員各社の皆様との施工方法や苦労話などの意見交換を交わせたことは弊社業務にも生かされ大変有意義なものとなりました。鉄車工同様に営業と安全衛生を通じて社外の皆様方とも鉄道車両についての交流を図れたことも私自身の視野が広がり知識となり私にとって尊い財産ともなりました。

この度の受賞は、今までご指導をいただいた社内外の諸先輩方をはじめ、同僚、後輩の方々のご協力の賜物と深く感謝いたしております。この受賞を励みとして微力ではありますが鉄道車両工業の発展と後進の指導や育成に努め、安全と品質に尽力して参ります。

最後に日本鉄道車輛工業会の益々のご発展を祈念し、御礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

### 榎本章仁氏（ナブテスコ株式会社）



この度は、日本鉄道車輛工業会「鉄道車両工業功労者表彰」の栄誉に浴しましたことは、身にあまる光栄であり、心からお礼申し上げます。また、受賞に当り、ご推薦頂きました関係者の皆様方には厚くお礼申し上げます。

私は1985年に旧日本エヤーブレーキ(株)に入社以来、約33年間神戸・東京・名古屋で鉄道車両用ブレーキ・ドアの営業に携わってまいりました。その間に関わりを持たせて頂きました鉄道事業者殿・鉄道車両メーカー殿の方々のご指導の御陰で今日の自分があると感じております。この場をお借りしてお礼申し上げます。その後、2006年から海外鉄道関係の営業も兼務させて頂いております。コミュニケーションの難しさに苦慮していますが、国内営業での学びから、人との繋がりが大切な業務と思っておりますので、その気持ちを忘れず、今後も業務に取り組んで参ります。

今回の受賞を励みとし、鉄道を利用してくださるお客様の安全・安心・快適のために努力を惜しまず、職務に精励して参ります。最後に日本鉄道車輛工業会の益々の発展を祈念し、御礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

## 大野 和 男 氏 (川崎重工業株式会社)



この度は、栄誉ある日本鉄道車輛工業会の「精励者表彰」をいただき、誠にありがとうございました。また受賞にあたり御推薦いただきました関係者皆様に心より厚く御礼を申し上げます。

私は1980年に入社をしまして40年間、鉄道車両における機能試験業務に携わってまいりました。数多くの国内向車両製造の中、私の入社当時には我社が海外(北米)向車両に力を入れ始めた時期と重なったこともあり、北米を皮切りとして、シンガポール、香港、台湾、中国と数多くの海外向車両へ従事してまいりました。

私事ですが慣れない言葉、海外生活、家庭の問題など色々とありましたが、私は運が良く、海外へ行った先々で出会ったお客様、一緒に仕事をした仲間たちに恵まれ、今思い返しますとこの様な経験は人生の中で中々無いことであり、良い人生経験をさせていただいたと思っております。何より、海外の人々に日本製車両に対して喜んでいただけるということは「車両製造者冥利に尽きる」と思っております。今回の受賞を励みに今後もお客様に満足していただける「愛情のこもった車両造り」に努めていきたいと思っております。最後になりますが、日本鉄道車輛工業会の益々のご発展を祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。

\*\*\*\*\*

## 近藤 弘彦 氏 (鈴木合金株式会社)



この度は、栄えある鉄道車両工業精励者賞をいただきましたことにありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。また、受賞にあたり、ご推挙・ご配慮くださいました関係者の皆様方に深くお礼申し上げます。

私は、1977年に抵抗器専門メーカー鈴木合金株式会社に入社、43年に渡り、車両・電力供給用抵抗器の新製・メンテナンスの設計・営業部門業務に携わってまいりました、振り返るとEH2

00・500機関車用ブレーキ抵抗器、車両電力供給用設備各種抵抗器の「受注」から「納入」また、機器設置後の「メンテナンス」と鉄道ビジネスを経験させていただき成果を上げることが出来ました、これはひとえにお客様、取引先様関係各位様方、諸先輩方の多大なるご指導と家族の支えの賜物と深く感謝しております。

今後も、お客様の安全、安心、快適を目指して微力ながら職務に精励し、後進の育成にも努めてまいりたいと考えております。

最後に日本鉄道車輛工業会の益々のご発展を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*



\*\*\*\*\*

## 粉原 秀樹 氏（三菱電機株式会社）



この度は、栄誉ある「鉄道車両工業精励者表彰」を賜り、誠にありがとうございます。また受賞にあたり、ご推薦いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、1982年に入社し、車両用推進制御装置設計部門で、当時新方式であった高周波四象限チョッパ装置を担当しました。その後、VVVF、CI等各種装置設計を経験した後、車両技術とりまとめ部門にて、国内・海外向けの様々なプロジェクトに参画させていただきました。

これまで、多くの鉄道車両業務に携わることができましたことは、私の貴重な財産であり大きな喜びです。

今回の受賞は、これまでご指導いただいた諸先輩方、同僚、後輩の方々のおかげと深く感謝しております。この受賞を励みとして、今後とも微力ではありますが、鉄道車両工業の発展に貢献できるよう努めてまいります。

最後に、日本鉄道車輛工業会の益々のご発展を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

## 原 拓道 氏（株式会社五光製作所）



この度は、栄えある鉄道車両工業精励者賞を頂き、誠に有難うございます。又、受賞にあたり、ご推薦頂きました関係各位に厚く御礼申し上げます。

私は、1976年に設計課員として入社、主要製品全般の基礎設計を教わり1979年に営業部へ異動し輸送機器製品（船舶、バス、鉄道）の販売に従事してまいりました。

特に鉄道部門での3Kと嫌われたトイレに於いては次期主力製品と期待される新システムとして真空式トイレの開発、販売には深い思い入れがあり、当時の取引先各社様のご担当者のご理解、ご指導を頂きながら社内諸先輩の支援もあり製品化受注、販売できた事は関係者皆様に改めて深く感謝しております。自分にも本当に「辛さ・喜び」の良き経験をさせて頂いたと思っております。

今後も益々環境の変化に伴う鉄道車両製品開発、進化には重要性があると考え当社も鉄道車両工業の発展に貢献できるよう私も微力ながら努めてまいります。

最後になりましたが日本鉄道車輛工業会の益々のご発展を祈念しお礼の言葉とさせていただきます。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

## 平 木 吉 一 氏（三菱重工業エンジニアリング株式会社）



この度は伝統ある日本鉄道車輛工業会「鉄道車輛工業精励者表彰」の栄誉にあずかり誠にありがとうございます。これまで多大なるご指導・ご支援いただきました上司、諸先輩、同僚、後輩、関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

私は、1967年の入社以来、半世紀以上鉄道車両用空気ブレーキ製品の製造に携わってまいりました。主に、製造部門の機械・組立の生産技術を担当してきました。

1970年、弊社初号機である真空管が採用されたNC三頭フライス盤のオペレータをはじめ、NC工作機械の礎を築き、旋盤FMSライン構築など、NC工作機械の普及に努めてまいりました。

また、『安全に、早くて、きれいに、確実に』を信念におき、ものづくりに欠かせない治工具の設計・考案、製造ラインの生産設計、各種生産設備導入、組立工法の確立と電子化等を推進し、生産性向上に貢献できた事を誇りに感じています。苦労もありましたが実現した際の喜びと充足感は格別なものがありました。あくなき挑戦の毎日でしたが、この日々が、自分は「ものづくり」と鉄道をこよなく愛しているのだということを改めて教えてくれました。

この受賞を励みとして、鉄道車両の健全な発達とお客様の生活向上に寄与できるよう、安心・安定・安全な製品造り、そして後進育成に努める所存でございます。

最後になりましたが、日本鉄道車輛工業会の益々の発展を祈念し、御礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

## 山 本 城 二 氏（東芝インフラシステムズ株式会社）



この度は栄誉ある鉄道車両工業精励者賞を頂き、誠にありがとうございます。ご推薦いただきました皆様に御礼申し上げます。

私は1979年に入社以来、前半19年間は在来線VVVF、SIV、空調用インバータなどの設計、開発、また機関車では3000V GTO チョップアの開発などに携わっておりました。途中日本地下鉄協会にてリニア地下鉄標準化活動に従事させていただくなど貴重な経験をさせていただきました。また、後半22年間は

車両システム技術に携わり、アメリカ、カナダ、その他海外案件、特に中国案件については途中6年半ほどの現地駐在を含め20年間継続して携わってきました。

今後AI技術の進化などで業種の形態が変化してくると言われていますが、人間の営みを考えた場合、今後とも「物流」が無くなることはない、つまり環境問題も継続的に叫ばれる中で鉄道の持つ意義が崩れ去ることはないと確信しています。

私としましても、今回の受賞を励みとして、今後とも優れた製品、システムを世の中に提供できるよう、微力ながら努めてまいりたいと考えます。

最後に日本鉄道車輛工業会のますますの発展を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

## 山本吉和氏（近畿車輛株式会社）



この度、一般社団法人日本鉄道車輛工業会「鉄道車両工業功労者表彰」をいただきました事は、鉄道車両作りに携わってきた者として最高の栄誉であり、誇りに感じております。今回、推薦していただいた方々に対し、深く御礼申し上げます。

1980年4月近畿車輛に入社して以来40年間、一貫して車両製造に携わってきました。その間、委員会活動で鉄道車両工業会の方々や、同業他社を含む委員会メンバーの方々に大変御世話になりました。

最初に鉄車工を訪問したのは、まだ入社2年目位だったと記憶しております。当時の直属の上司であった課長が車体小委員会へ行けなくなったので、代理で行かせてもらったことが最初でした。

曖昧な記憶ですが、東京駅から歩いて行った気がします。会議室は物置部屋に近く、背の高いロッカー上にも紙で包んだ資料らしきものが積み上げられていた、という印象で委員の方々は、各メーカーの現場を持たれた課長の方々が多く、その製造に関する知識に圧倒されました。

委員会の委員として参加させていただいた時は、車両生産小委員会に5年ほど、艤装小委員会に3年ほどお世話になり、最後は環境委員会で委員長をさせていただきました。特に環境委員会では、国土交通省への報告内容が難しく、種々教えていただきました。長きにわたって委員を務めさせていただきましたのも、指導、助言をいただいた故と感謝しております。

今後も日本鉄道車輛工業会の益々の発展に微力ながら貢献する為に、省エネで、安全に大量輸送できる車両の製作に努める覚悟です。この度は表彰いただき、ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

## 横木健一氏（富士電機株式会社）



この度、栄誉ある鉄道車両工業精励者表彰を頂き、誠にありがとうございます。また受賞にあたり、ご推挙・ご配慮くださいました関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

私は1985年の入社以来、品質保証業務に従事し、新幹線用機器、並びに国内外の在来線車両機器の製品出荷やフィールド対応、また開発試験にも数多く携わらせていただきました。2011年以降は鉄道エンジニアリング部門に所属し、北米向け、またシンガポールを主としたアジア向けのプロジェクトに携わらせていただき、これらの業務を通して、国内外の重要な社会インフラである鉄道システムに関われた事は、私にとって大きな喜びです。

またこれらの業務を通して数多くの方々と出会えた事は私の貴重な財産であり、特にこの度の受賞は、今までご指導いただいた諸先輩方と、同僚、後輩の方々の協力の賜物と、深く感謝しております。

今後も、この受賞を励みとして、微力ではありますが鉄道車両工業の発展に貢献できるよう努めます。

最後に、日本鉄道車輛工業会の益々のご発展を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

## 鉄道車両工業卓越技能者関係

\*\*\*\*\*

### 小林 久勝 氏 (株式会社 総合車両製作所)



この度は、栄誉ある日本鉄道車両工業卓越技能者賞を頂き、誠に有難うございました。

入社以来、鉄道車両の台枠組立職場で、台枠修正作業に従事してまいりました。今日、42年前を振り返りますと、ガスバーナーに点火できず、製品も満足に修正できず、台枠の下で悔しくて涙を流した事もありました。そんな未熟者だった私ですが、諸先輩方から、暖かいご指導を頂けたこともあり、42年間を台枠

の修正作業に携わる事ができ、この様な立派な賞を頂き、感慨無量でございます。

今後は微力ながら、今まで培った技量技能を後進へ伝承し、鉄道車両工業発展に貢献してまいります。

最後に、この受賞にあたり、ご推薦いただいた関係者の皆様方に心より厚く御礼申し上げます、また、日本鉄道車輛工業会の益々の発展を祈念し、御礼の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

### 野村 幸雄 氏 (川崎重工業株式会社)



この度は、栄誉ある鉄道車輛工業会の卓越技能者表彰を頂きまして、誠にありがとうございました。心より感謝すると共に、推薦して頂きました関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

私は入社以来24年間に渡り、国内外の鉄製及びステンレス製の通勤、特急、地下鉄電車その他、機関車など車両の構体製造作業一筋に従事してまいりました。また南アジアや米国など海外車両のスーパーバイザーとして、生産準備から量産製造の技術指導を担当したことは、私にとって貴重な経験をさせて頂いた

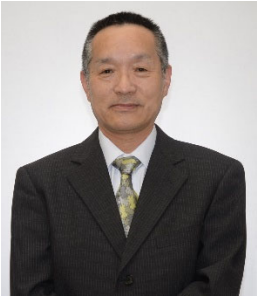
時期であり懐かしく思い出されます。このような経験により、日本の安全、品質、技術レベルの高さを痛感し、現在も日本のものづくりに誇りを持ちながら日々の業務に邁進しております。今後も卓越技能者に恥じないように、より一層後進育成、安全、品質並びに技能伝承に努めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、日本鉄道車輛工業会の益々のご発展を祈念いたしまして、御礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*



\*\*\*\*\*

**森 勝利 氏（日本車輛製造株式会社）**

この度は、栄誉ある『鉄道車両工業卓越技能者表彰』を頂き、誠にありがとうございました。ご推薦を賜りました関係各位の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

私は昭和 56 年に入社して以来 39 年間に亘って鉄道車両構体の部品溶接組立作業に携わり、初代新幹線の 0 系から現在の N700S 新幹線その他、JR 在来線、公民営向け電車、海外向け車両等、数多くの車種の構体部品製作に従事してきました。その中で、「作業をやりやすくし、効率化を図る」ことを信条

として、周囲と協力をしながら改善活動やスポット溶接の自動化に取り組んできました。また、台湾、アメリカでの技術指導も経験することができ、自身の成長に大いに役立ったと感謝しております。

今後は、この受賞を励みとして微力ではありますが、上司、同僚、後輩の方々の協力のもと鉄道車両製造の次世代を担う後進の育成に努めて参ります。

最後になりましたが、日本鉄道車輛工業会の益々のご発展を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*